

# ゆりかご

2020.10.1

# 園だより



3期(10~12月)のねらい  
手を使ってつくりだす活動を中心に園生活を豊かにしよう

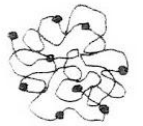
先月開催された運動会、あいにくの天気で屋外や体育館への移動をはじめ、皆様には大変ご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。寒い中応援していただきありがとうございます。

ございました。また、企画や運営にご協力をいただき、感謝申し上げます。

運動会翌日、「寒い中頑張ってくれてありがとう」と子どもたちにも感謝の気持ちを伝えました。「楽しかった!」「またやりたい!」という声が一斉に飛び交う中、4歳児のAちゃんから「先生も運動会の準備をしてくれてどうもありがとう」と思いがけないことばをもらいました。今年の運動会は「ちょっといつもと違うぞ」と思ったのでしょうか? 子どもにとっても大人にとっても忘れられない運動会になりました。

ゆりかごでは、運動会を単なる楽しい行事とはとらえていません。運動面での成長はもちろんですが、心の成長も願って取りくんでいます。

大好きな先生と一緒にからだを動かすことが楽しい2歳児。



先生も大好きだけれど友だちも大好き。友だちと一緒にイメージをもち、そのイメージの世界を楽しみながら目的に向かう3歳児。

友だちの存在が大きく、自分と他者を比較できるようになり「あんな風にできなくて悔しい」「友だちみたいにできないからやりたくない」など複雑な感情を見せる4歳児。葛藤しながらも、恥ずかしさを乗り越え、意欲を見せる子どもたちは大きく成長したように思います。内面の成長は5歳児に負けていません。

園の中で一番大きな5歳児は、他者との関係から今の自分に気づき「もっと上手になりたい」「もっとできるようにになりたい」という気持ちが育てきます。失敗しても諦めず挑戦する心の強さを感じます。それには頑張りを認めてくれ、共に喜んでくれる仲間の存在が大きいのです。

4歳児の手押し車や5歳児の太鼓や縄とびは、この年齢になつたから突然できるようになるのではなく、乳児期のわらべうたあそびやふれるあそびを通して、拍やリズムを感じてきたことが土台となつています。

しなやかな心と体を育む「運動会」。今年は0歳と1歳の参加が叶わなかったけれど、参加した子どもたちは小さい子たちの分もよくがんばっていました。

来年は多い人も皆が参加できる状況になつてほしいと切に願っています。